

哲 學 研 究

第 壹 卷 第 八 冊

第 八 號

大 正 五 年 十 一 月 一 日 發 行

- 視覺に於ける右利左利……………文學士 黒田源次
基督教に於ける神の内在觀……………マスタール オブアーツ 日野眞澄
自覺に於ける直觀と反省（承前）……………文學博士 西田幾多郎
フイヒテの宗教哲學の發展（完結）……………文學博士 朝永三十郎
シヤンカラの眞智に關する思想に就て……………
……………文學士 本田義英
彙報・新著紹介……………

京 都 帝 國 大 學 文 科 大 學 內
京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、毎月一回研究會ヲ開ク

一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク

一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス

第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一、委員(若干名) 京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會

ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス

第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得

學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スル

コトヲ得

第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓貳拾錢、前後二期ニ分チテ前納ス

ベキモノトス

第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲

學研究』ノ配付ヲ受ク

第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士 西田幾多郎

文學博士 朝永三十郎

文學士 千葉胤成

文學博士 狩野直喜

文學博士 米田庄太郎

文學博士 高瀬武次郎

文學士 中川得立

文學士 植田壽藏

文學士 野上俊夫

文學博士 松本文三郎

文學士 深田武

文學博士 深田康算

文學博士 藤井健治郎

文學博士 小西重直

寶殿方治

書記

れた結果を整理されたのが此の書である。全篇十七章九百頁に渡る大冊であるが先づ三部分に大別する事が出来ると思ふ第一は言語の發達に關する研究であつて、兒童の言語活動を理解する必要より言語及文字の種族的發達と言語中樞の機能とを精密に討究して、次に言語の個人的發達の論定に進んで居る。第二は讀方教材に關する研究であつて、先づ内外國讀本の形式内容の變遷を叙し序で讀方教材の形式的方面即文字文章は如何なる形式に表はせば讀み易くして疲勞少なきかの研究と、内容的方面即漸入兒童の觀念界、兒童の記憶の發達、想像の一般的特徴、理想人物の變遷、興味の變遷、及觀察力の發達によりて、讀本の内容及挿繪を如何に顯赫すべきかの研究とを含んで居る。第三は以上の研究よりして現今の小學讀本の形式的方面と内容的方面との改良に關する意見を述べられた部分である。各題毎に廣く内外の研究殊に實驗統計の結果を沿革的に比較しつゝ、敘述し引用頗る豊富である、而して其の研究法と實驗の結果とは各適當なる批判を加へ、更に著者自身の工夫せられた研究法による多量の實驗統計の結果とを比較對照して、種々有益なる結論を出して居られる。由來此の種の研究に關して遺憾に堪へないのは著者も慨嘆して居らるゝ如く我邦に於ける實驗の甚だ乏しい事である、従つて著者の擧げられた引用例も外國のものゝ非常に豊富なるに比し我邦のものは割合に少ない、併し少ない中にも著者自身の實驗統計は中々多量である、殊に讀方の視覺的方面的研究に關する實驗は頗る精細である。望むらくは著者自身に益々此の種の實驗を積まれ、且つ著者の位置の必要とし又便宜なるによりして各地に行はれんとして居る實

驗統計の方法と結果とを指導批判して我邦に於ける正確なる實驗統計の結果を廣く多く集められたいものである、斯くして此の種の實驗の結果より導き出さるゝ結論は益々其の確實性を増すべきである。著者も謙遜して「余は此の結果の信仰を希ふよりも此の研究法を以て世に問ひ教授法の研究に向つて新方面の發展を希望するものである」と云つて居られる、蓋し此の書に於ける如き研究法によりて教授法の將來が著者等の開拓に缺つ事ゝ頗る大なるものがあるであらう。吾人は現今盛に主張せられながら割合に行はれて居ない『教授法の原理を正當に建設し得べき實驗的客觀的研究』の最も充實せる有益なる一書として教育界に推稱するものである。(西居靈證) 京橋區南傳馬町二丁目五、目黒書店發行、定價金二圓八十錢。

寄贈書籍雜誌

- | | | |
|--|------------|-----|
| 宗教と人生 | 軌足理一郎著 | 洛陽堂 |
| 金剛心 | 富士川遊述 | 同 |
| 倫理綱界 | 文學士 木下四郎一著 | 同 |
| 法華經の行者白蓮 | 文學博士 姉崎正治著 | 博文館 |
| 哲學雜誌、心理研究、丁酉倫理會講演集、東洋哲學、六合雜誌、東亞之光、第三帝國、學校教育、教育、内外教育評論、普通教育、小學研究、教育研究、教育學術界、東京教育、奈良縣教育、靜岡縣教育時報、滋賀縣教育會雜誌、岐阜縣教育、三重教育、愛知教育雜誌、長崎縣教育雜誌、愛媛教育、信濃教育、佐賀縣教育、臺灣教育、 | | |

前 號 目 次

自覺に於ける直觀と反省……………	文學博士	西田 幾多郎
フイヒテの宗教哲學の發展……………	文學博士	朝永 三十郎
集團心理現象の概念及び本質……………	文學士	尾生 光三郎
記憶に關する心理的假說……………	文學士	深 田 武
學界近況		
新著紹介		
口 繪		
ジヨサイア・ロイス肖像		

會 告 定 價 廣 告 料 註 文 規 定

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下
 度候
 一、會費ハ振替口座大阪券〇六六番番、京都哲學會宛テニ
 御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ
 凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 京都哲學會
 文科大學內 振替口座大阪券〇六六番番

冊	數	定	價	一	郵	稅
一	冊	金	貳	拾	錢	壹
六	冊(前金)	金	貳	圓	貳	拾
十二	冊(前金)	金	貳	圓	四	拾

廣 告 料 一 頁 金 拾 圓 半 頁 金 六 圓

◎會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶
 文館へ御申込下され度候
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さる
 べく候
 ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
 ◎前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに
 付直に御拂込下され度候
 ◎見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下
 され度候

大正五年十月二十八日印刷納本
 大正五年十一月一日發行
 第八號 第一卷 第八册

京都帝國大學文科大學內

編輯者 京都哲學會

右代表者 寶嚴方治

發行者 大葉久吉

印刷者 青柳十一郎

印刷所 秀英舎第一工場



發行所 東京日本橋區本石町三丁目
 (振替口座東京二八〇番) 寶文館

發賣元 東京市日本橋區本石町三丁目
 大阪市東區淡路町四丁目 寶文館

賣捌所 (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、
 良明堂、上田屋 (大阪) 盛文館
 (京都) 寶文館 (神戸) 寶文館

本 合

京 都 哲 學 會 編 纂

哲 學 研 究

執 筆 者

文學博士									
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

西田幾太郎	千葉胤成	松本文三郎	小西重直	中川得立	高田保馬	田邊元	植田壽藏	植田壽藏	植田壽藏
-------	------	-------	------	------	------	-----	------	------	------

文學博士									
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

宇野圓空	狩野直喜	深田康算	錦田義富	米田庄太郎	西 啓一郎	左右田喜一郎	安部晴之助	安部晴之助	安部晴之助
------	------	------	------	-------	-------	--------	-------	-------	-------

自第一號至第六號



總布上製 定價金壹圓貳拾錢 全一册 送料金拾貳錢

本誌は京都帝國大學文科大学哲學科機關雜誌にして、本邦に於て唯一の權威なるは今更喋々を要せざる所なり。今や前半期六冊を合本として普く同好の士に頒たんとす。本書が新學説を發表するに於て遺憾なく、其内容の卓越せるは、斯學の研究及普及の目的を遂くるとに於て其効果偉大なるものと信ず。一本の備付を薦む。

東京日本橋區本石町 (振替東京二〇八番) 寶文館 大阪市東區 (振替大阪三番) 三番